

都市再生整備計画 事後評価シート

乙金地区

平成26年2月

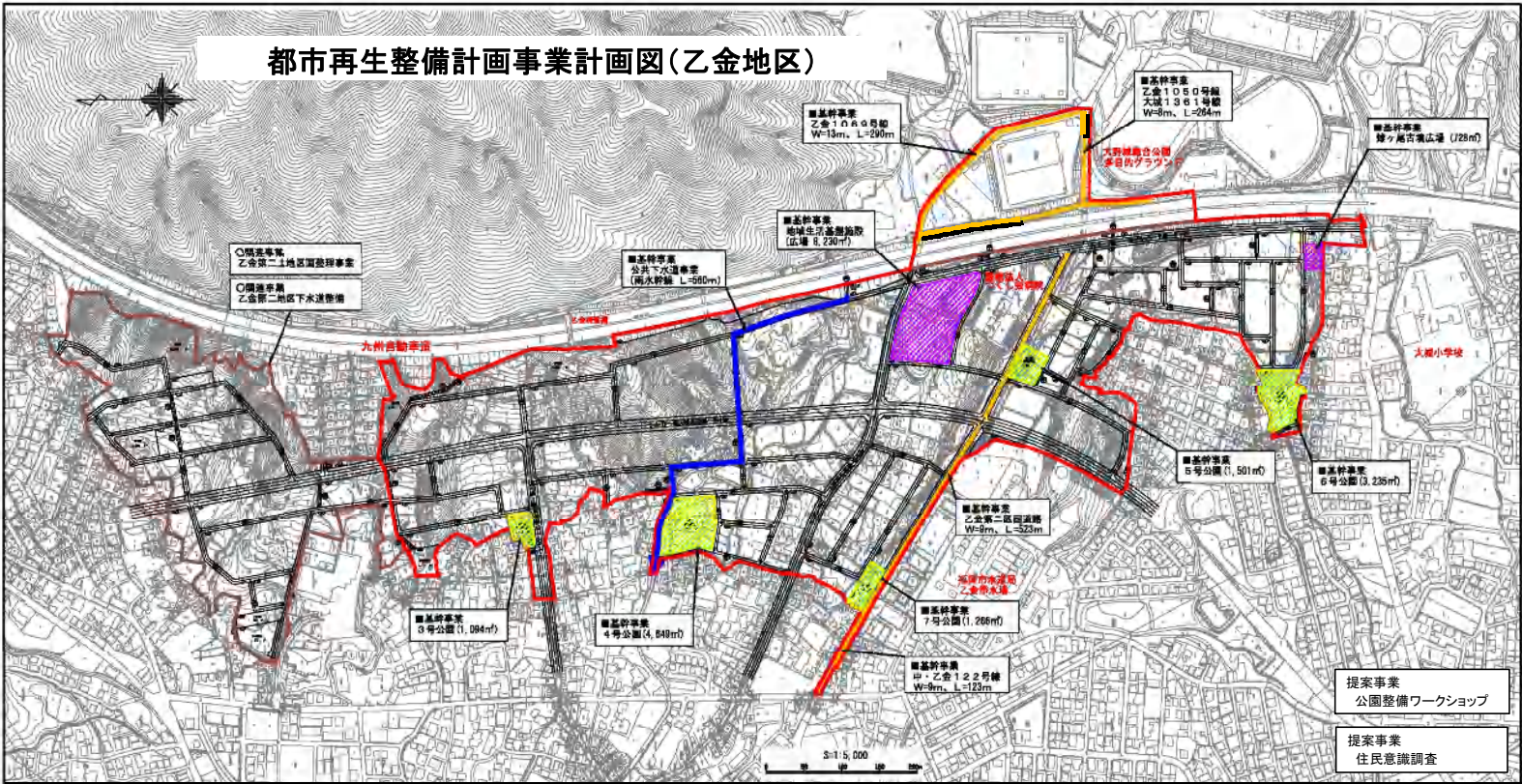
福岡県大野城市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	市町村名	大野城市	地区名	乙金地区			面積	36.2ha				
交付期間	平成21年度～平成25年度	事後評価実施時期	平成25年度	交付対象事業費	1,103百万円	国费率	0.4						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
		基幹事業	道路(まどかパーク線、乙金1069号線、乙金1050号線・大城1361号線、乙金第二区画道路W=9m、中・乙金線)、公園(、街区公園(5号公園)、街区公園(6号公園))、下水道(公共下水道事業(雨水))、地域生活基盤施設(多目的広場)										
		提案事業	事業活用調査(住民意識調査)、まちづくり活動推進事業(公園整備ワークショップ)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(まどかパーク線)		事業計画の見直しにより削除			指標1、指標2に関わるが影響は軽微なため数値目標は差し置く					
		提案事業											
	新たに追加した事業	基幹事業	公園(街区公園(3号公園)、街区公園(4号公園)、街区公園(7号公園))、地域生活基盤施設(雉子ヶ尾古墳広場)		公園の整備数増加による整備効果の向上と地域生活基盤施設の整備効果の向上を目的として追加			指標4に関連するが、影響は軽微のため数値目標は据え置く					
		提案事業											
交付期間の変更	当初	平成21年度～平成24年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		影響なし							
	変更	平成21年度～平成25年度											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
			基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	指標1	道路網の整備満足度	%	35.4%	H19	38.0%	H25	46.8%	○	あり なし	・事業により、これまで幅員5m以下ばかりであった地区内道路が拡幅・新規整備され、通行安全性が向上した。 ・乙金地区は、幹線道路が周囲に位置している一方、幹線道路までのアクセシ性の向上や地区内を南北に繋がる道路の整備が課題となっていたが、事業により道路基盤が整い、市中心部へと繋がる幹線道路へのアクセシ性や地区内の通行安全性が高まった。		
	指標2	歩道整備延長	m	257m	H20	5,000m	H25	4,530m	△	あり なし	・乙金地区の小中学校や東コミュニティセンター等の公共施設、大野城総合運動公園などへ繋がる道路に歩道が整備されたことにより、歩行者の通行安全性が高まったと判断できる。	平成27年3月	
	指標3	区画整理地内住宅新規着工件数	戸	0戸	H20	50戸	H25	90戸	○	あり なし	・背後にそびえる四王寺山をはじめとした自然環境豊かな立地や、中心部へ繋がる幹線道路が近隣に位置するなど、元々魅力ある立地であったため、事業により都市基盤が整備されたことで居住を希望する住民が増加し、保留地処分が進んだと考えられる。	平成26年4月	
	指標4	快適な住環境づくり満足度	%	31.9%	H19	35.0%	H25	57.1%	○	あり なし	・地区内に多くの公園が設けられたことや道路整備、下水道整備により都市基盤が強化されたことが満足度の向上に繋がったと判断できる。		
	3)その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)
			基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み				
その他の数値指標1		居住人口	人/年	1,369	H19				1,689			・事業前から備わっている自然環境や幹線道路とのアクセスなどのポテンシャルを事業によって向上させたことで、保留地処分が進み、居住人口が増加したと考えられる。	平成26年10月
その他の数値指標2	緊急車両到達時間	分	3.39	H19				1.86			・事業前は、道路幅員5m未満の道路ばかりであり、緊急車両の到達に時間を要していたが、事業により、道路幅員6m以上となり、緊急車両到達時間が短縮され、地区の防災性の向上をもたらした。		
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	毎年公表される統計データを確認し、指標の値の推移を把握した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●			今後もデータの推移を確認し、効果の把握を行う。
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	住民参加プロセス	公園ワークショップの実施(第3号公園～第7号公園)				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●			今後も、ワークショップをはじめとした住民との共働によるまちづくりの推進を図る。
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
持続的なまちづくり体制の構築	乙金第二地区土地区画整理組合総会への参加				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●			今後も引き続き、組合施行土地区画整理事業の総会に参加し、事業推進をサポートしていく。	
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
持続的なまちづくり体制の構築	多角的に行政評価(診断)を行うシステム「公共サービスDOCK事業」(D=誰でも、O=オープンに、C=チェックできる、K=環境づくり)により、市民及び専門家の意見を反映させている。				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●			今後も「公共サービスDOCK事業」により、様々な意見を取り入れながら、市民満足度の高い公共サービスの提供および効率的な行政経営を目指していく。	
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

様式2-2 地区の概要

乙金地区(福岡県大野城市)都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 良好な居住環境の形成 目標1 交通安全性、歩行者の快適性の向上を図る。 目標2 快適で人にやさしい住環境を作る。	道路網の整備満足度	%	35.4%	H19	38.0%	H25	46.8%	H25	
	歩道整備延長	m	257m	H20	5,000m	H25	4,530m	H25	
	区画整理地内住宅新規着工件数	戸	0戸	H20	50戸	H25	90戸	H25	
	快適な住環境づくり満足度	%	31.9%	H19	35.0%	H25	57.1%	H25	
	居住人口	人/年	1,369	H18			1,689人/年	H26	
	緊急車両到達時間	分	3.39	H18			1.86分	H25	



まちの課題の変化	・事業により車道や歩道が整備され、車両、歩行者双方の通行安全性を確保できた。 ・公園、広場、公共下水道の整備により、住環境の形成に必要な基盤整備を行うことができた。 ・事業区域内の通行安全性や歩行者の安全性は高まったが、旧市街地の道路基盤は依然として脆弱であり、小中学校まで至る道路でも十分な歩道を確保できていない区間があることから、旧市街地における歩行空間の確保が必要である。 ・関連事業である乙金第二土地区画整理事業がまだ完了しておらず、事業効果が十分に発揮されるためには、事業を円滑に推進する必要がある。 ・事業により、計画区域内の居住人口が増加しており、歩行者の安全確保の重要性が増加したことから、歩行者空間の確保が必要である。 ・宅地の整備により、新規に居住する住民が大きく増加したことから、新市街地と旧市街地の住民相互のコミュニティの形成を促す必要がある。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	・計画区域内の道路基盤が整ったことから、今後は歩行者や運転者に対して交通安全意識を向上させる取り組みを行い、通行安全性を維持していく。 ・土地区画整理事業によって今後引き続き整備予定である道路等の基盤整備を推進するとともに、事業に関連して旧市街地の都市基盤の改善を図り、新市街地と旧市街地双方の住環境を向上させることで住民の満足度を維持していく。 ・旧住宅地内に狭隘道路が多いことから、歩行者空間を確保するため、道路の有効幅員を可能な限り確保していく。 ・歩道確保が困難であるため、路側帯のカラー化を行い、歩行者の安全対策を講じる。 ・引き続き事業を推進することで基盤整備を図っていく。